

▶▶▶ 天草市

重点
プロジェクト

スポーツの拠点づくり

分類 まちづくり

総事業費	2,440,000千円	寄附目標額	—
計画期間	地域再生計画の認定の日…2020年4月1日～2025年3月31日		
数値目標	●年間利用者数 …………… 51,000人 ●大会及び合宿誘致数 …………… 24件		

〈SDGs〉関連するゴール



天草市スポーツ拠点整備事業

市民の健康づくりや子どもたちの体力増進及び競技力の向上ができる環境づくりと、スポーツ大会やスポーツ合宿の積極的な誘致により市外からも多くの来訪者を呼び込み、スポーツを通じた交流人口の増加による地域活性化を図るためにも、拠点となる施設の整備が必要となっています。

そのため、令和4年4月にスポーツに関連する様々な取り組みを推進する組織となるスポーツコミッションを設立し、市民の健康づくりや競技力向上を図るだけでなく、スポーツ大会やスポーツ合宿の誘致なども含めた取り組みを推進することで、子どもたちに天草で一流のスポーツ選手と交流できる機会を増やしていきます。

併せて、スポーツ拠点施設を整備することで、ソフト面とハード面の両面からのスポーツによる地域活性化を図ります。

今回整備する拠点施設は、400mトラックに加え、一周1000mの起伏のあるコースやサッカーコートも併せて整備します。また、障がい者スポーツの普及を図るため、障がい者のスポーツ大会も開催できるような使いやすいスポーツ施設として整備することとしています。



イメージ図

重点
プロジェクト

自然とともに創るまち

分類 その他(環境教育・環境保全)

総事業費	9,720千円	寄附目標額	—
計画期間	地域再生計画の認定の日…2020年4月1日～2025年3月31日		
数値目標	●環境保全活動を行っている市民の数 …………… 21,000人		

〈SDGs〉関連するゴール



イルカと共存できる環境づくり

天草下島の北側にある早崎海峡は、有明海の入り口であることから潮流が速く、プランクトンの発生が活発です。そのため豊富な魚類が集まる漁場となっており、これらの魚を餌とする野生のイルカが古くから漁業者と共存しながら多く生息しています。このような環境は、世界的に見ても珍しく、地域の貴重な観光資源としても大きな役割を担っています。

近年の地球温暖化に伴う気候変動により、温室効果ガスの削減に対する意識や関心が高まっていますが、いつまでも身近にイルカが住んでいるという豊かな自然環境を後世に引き継いでいくためには、その要因について把握し、守っていく必要があります。

そのため令和4年度から、大学などの専門機関の協力が得ながら現地での実態調査を進め、調査で得た情報を環境教育などの学びの場で活用し、市民の環境保全に対する意識の高揚に繋げていくこととしています。また、イルカウォッチングについても、体験だけでなく教育に関するプログラムを取り入れたサービスを提供することで、その価値を高めていきます。

いつまでも「人とイルカが共存している天草」を、環境保全の一つの大きなテーマとして取り組んでいきます。



野生のイルカ